

設計条件	形、素材	工 種	建築
事業工種	ポンプ場	事業名	国営総合農地防災事業 佐賀中部地区
所在地	佐賀県佐賀市	施設名	久保田第1排水機場
基本原則	防災・美化		



整備後

【景観配慮対策の概要】

久保田第1排水機場は、周囲を水田に囲まれた地域に位置するが、近年都市化の進行により宅地化が進みつつある。住宅は、瓦葺きの和風建築様式が多い。また、近隣の道路は通勤等に利用されており遮断物もないため排水機場が視認できる。

このことから、施設の様状や素材が、都市化が進行する水田地域の景観になじむよう配慮した整備がなされている。

- 建屋の様状及び素材について、周辺に多く見られる瓦葺瓦と古木の様状を採用し、周辺景観との調和に配慮している。



整備後

設計条件	形、素材	工 種	建築
事業工種	ポンプ場	事業名	国営総合農地防災事業 佐賀中部地区
所在地	佐賀県佐賀市	施設名	久保田第1排水機場
基本原則	防災・美化		



整備後

【景観配慮対策の概要】

久保田第1排水機場は、周囲を水田に囲まれた地域に位置するが、近年都市化の進行により宅地化が進みつつある。住宅は、瓦葺きの和風建築様式が多い。また、近隣の道路は通勤等に利用されており遮断物もないため排水機場が視認できる。

このことから、施設の様状や素材が、都市化が進行する水田地域の景観になじむよう配慮した施設の様状がなされている。

- 建屋の様状及び素材について、周辺に多く見られる瓦葺瓦と古木の様状を採用し、周辺景観との調和に配慮している。



整備後

設計条件	形、色彩	工 種	建築
事業工種	ポンプ場	事業名	国営総合農地防災事業 佐賀中部地区
所在地	佐賀県小城市	施設名	戸川第2排水機場
基本原則	防災・美化		



整備後

【景観配慮対策の概要】

戸川第2排水機場は、佐賀平野に位置し、周囲には水田景観が広がっている。近隣には国道が走り、車や通行人から視認できる。排水機場の周辺には、伝統的「くど造り」の民家が点在している。

建屋の改修に当たっては、伝統的な民家の建築様式などを踏まえ、周辺景観との調和に配慮した施設の様状がなされている。

「くど造り」とは、佐賀平野の伝統的な形状の家屋で、棟がコの字型で上から見ると、くど（かまど）の形をしている特徴がある。

- 建屋の様状は、「くど造り」の構造をデザインコードに使い、屋根の色彩も周辺家屋に用いられている違和感を与えない色彩を採用している。



整備後

設計条件	形、色彩	工 種	建築
事業工種	ポンプ場	事業名	国営総合農地防災事業 佐賀中部地区
所在地	佐賀県小城市	施設名	戸川第2排水機場
基本原則	防災・美化		



整備後

【景観配慮対策の概要】

戸川第2排水機場は、佐賀平野に位置し、周囲には水田景観が広がっている。近隣には国道が走り、車や通行人から視認できる。排水機場の周辺には、伝統的「くど造り」の民家が点在している。

建屋の改修に当たっては、伝統的な民家の建築様式などを踏まえ、周辺景観との調和に配慮した施設の様状がなされている。

「くど造り」とは、佐賀平野の伝統的な形状の家屋で、棟がコの字型で上から見ると、くど（かまど）の形をしている特徴がある。

- 建屋の様状は、「くど造り」の構造をデザインコードに使い、屋根の色彩も周辺家屋に用いられている違和感を与えない色彩を採用している。



整備後

【水路工】

設計条件	色彩、素材	工 種	開水路（護岸保護）、付帯施設（安全施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営かんがい排水事業 最上川下流沿岸地区
所 在 地	山形県庄内町	施 設 名	新余目堰用水路
基本原則	保全		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

新余目堰用水路は、最上川から取水され、新余目町市街地にある公園の中央部を流下している。現状水路の護岸は玉石積みとなっており、周辺景観になじんだものとなっていた。付近には神社、保育園等の施設があり、地域住民が訪れる憩いの場となっている。

このため、水路の改修に当たっては、地域住民が参加するワークショップにより整備計画が検討され、現状の玉石積みの保全と周辺景観になじむ色彩を採用した整備がなされている。

- 用水路は、現状の玉石護岸の良好な景観を保全することとし、玉石を用いた石積み工法を採用している。
- 防護柵は、周囲になじむように落ち着いた茶系の色彩を採用している。

【水路工】

設計条件	色彩、素材	工 種	開水路（護岸保護）、付帯施設（安全施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営かんがい排水事業 最上川下流沿岸地区
所 在 地	山形県庄内町	施 設 名	新余目堰用水路
基本原則	保全		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

新余目堰用水路は、最上川から取水され、新余目町市街地にある公園の中央部を流下している。現状水路の護岸は玉石積みとなっており、周辺景観になじんだものとなっていた。付近には神社、保育園等の施設があり、地域住民が訪れる憩いの場となっている。

このため、水路の改修に当たっては、地域住民が参加するワークショップにより整備計画が検討され、現状の玉石積みの保全と周辺景観になじむ色彩を採用した整備がなされている。

- 用水路は、現状の玉石護岸の良好な景観を保全することとし、玉石を用いた石積み工法を採用している。
- 安全柵は、周囲になじむように落ち着いた茶系の色彩を採用している。

設計条件	色彩、素材	工 種	付帯施設
事業工種	水路工	事 業 名	農業用水再開発事業 国雄地区 国雄地区地域用水路整備事業
所 在 地	山形県鶴岡市	施 設 名	大堰（国雄用水路）、東2号幹線用水路
基本原則	整備・美化		



整備前（大堰）



整備後（東2号幹線用水路管理用道路）

【景観配慮対策の概要】

大堰及び東2号幹線用水路を地域資源として将来も良好に維持管理していくことを目的とし「国雄地区地域用水路整備事業（国雄用水路）」を実施。

- 大堰では管理用道路にカーブを設け、生活用水護岸を高めるための高い壁を設けた。
- 東2号幹線用水路の管理用道路は、地域住民の利用を前提とし、高さのない構造とするとともに、舗装、ジョイント利用を想定し透水性のあるアスファルト舗装とした。
- 住民参加により舗装を行い、住民の憩いの場として利用できるように整備した。整備後は、国雄町民会等により地域住民が主体となった管理用道路の工事の点検、水路の清掃、管理用道路の舗装等を実施する体制が構築されている。

設計条件	規模・配置、形、色彩、素材	工 種	開水路（護岸保護）、付帯施設（安全施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営かんがい排水事業 安曇野地区
所 在 地	長野県安曇野市	施 設 名	松ヶ原用水路
基本原則	統合・美化、保全		



整備前



整備後

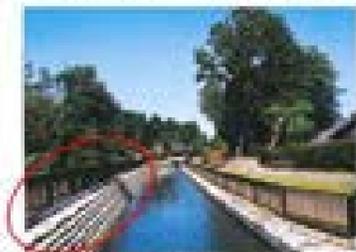
【景観配慮対策の概要】

松ヶ原用水路は、松本盆地の中央に位置し、地域の基幹用水路であるとともに、黒神用水路の役割を担う。水路沿いには、水田地域の中に河畔水による景観が形成され、管理用道路は地域住民の生活道路であるとともに憩いの場となっている。

現状水路は、全国的有名観光地である安曇野の景観の要素として重要な役割を有していることから、住民参加のワークショップにより景観配慮対策が検討され、河畔水を残存することによる従前景観の保全と、周辺景観と調和した護岸のブロック形状や素材、安全柵の色彩を採用した施策を実施している。

- 従前の河畔水（配水）に配慮し、改修前の景観を継承するため、ヤナギ等の河畔木を一部保全している。
- 護岸には、玉石タイプの露石ブロックと一部に自然石を採用し、護岸安全と自然な風合いを持たせて地域景観に配慮している。
- 安全柵は、周辺景観との調和を考慮してこげ茶色の色彩の鋼管を使用している。

設計条件	規模・配置、形、色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	開水路（護岸保護）、 側溝施設（安全施設）
所在地	長野県安曇野市	事業名	国営かんがい排水事業（安曇野地区）
基本原則	住居・文化、安全	施設名	松ヶ原開水路水路



整備後



整備後

【景観配慮対策の概要】

松ヶ原開水路は、松本盆地の中央に位置し、地域の基幹用水路であるとともに、基幹排水路の役割を担う。水路沿いには、水田地域の中に河野水による景観が形成され、管理用道路は地域住民の生活道路であるとともに憩いの場になっている。

既設水路は、全国的な観光地である安曇野の景観の要素として重要な役割を有していることから、住民参加のワークショップにより景観配慮対策が検討され、河野水を確保することによる景観要素の保全と、周辺景観と調和した護岸のブロック形状や素材、**石積**の色彩を採用した舗装を実施している。

- 従前の河野水（配置）に配慮し、改修前の景観を継承するため、ヤナギ等の河野木を一部保全している。
- 護岸には、玉石タイプの縦型ブロックと一部に自然石を採用し、護岸安定と自然な風合いを持たせて地域景観に配慮している。
- **石積**は、周辺景観との調和を考慮してこげ茶色の濁水を使用している。

設計条件	形、色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	開水路（護岸保護）
所在地	長野県長野市	事業名	国営かんがい排水事業（国営農業用水再編対策事業） 新穂北地区
基本原則	住居・文化	施設名	南平野開水路



整備後



整備後

【景観配慮対策の概要】

国営開水路は、「ふるさと景観の風情を守り育てる条例」を制定しており、南平野地区はこの条例を受けて美しい景観形成を目指している。

南平野地区の開水路は、集落内を流れ、農業用水のほか、歴史的に生活用水や防火用水など多面的に利用されてきており、地域用水機能が発揮されている。

このため、開水路の改修に当たり、周辺景観や生活用水、生態系に配慮した整備について住民参加のワークショップにより検討され、農村集落の景観や歴史文化に配慮した施設の整備がなされている。

なお、施設整備後には地域住民による清掃や植栽などによる取組も行われている。

- 開水路の護岸は、既設の水路と同様に自然石を用いた石積み工法を採用した整備により景観が保たれている。

設計条件	形、素材		
事業工種	水路工	工 種	開水路（護岸保護）
所在地	長野県長野市	事業名	国営かんがい排水事業（国営農業用水再編対策事業） 新穂北地区
基本原則	住居・文化	施設名	南平野地区地域用水路



整備後



整備後

【景観配慮対策の概要】

国営開水路は、「ふるさと景観の風情を守り育てる条例」を制定しており、南平野地区はこの条例を受けて美しい景観形成を目指している。

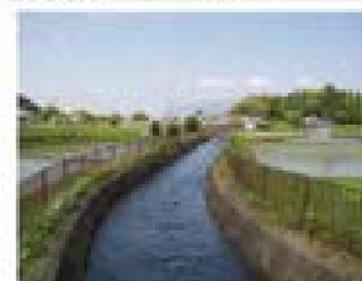
南平野地区の開水路は、集落内を流れ、農業用水のほか、歴史的に生活用水や防火用水など多面的に利用されてきており、地域への地域用水機能が発揮されている。

このため、開水路の改修に当たり、周辺景観や生活用水、生態系に配慮した整備について住民参加のワークショップにより検討され、農村集落の景観や歴史文化に配慮した施設の整備がなされている。

なお、施設整備後には地域住民による清掃や植栽などによる取組も行われている。

- 開水路の護岸は、既設の水路と同様に自然石を用いた石積み工法を採用した整備により景観が保たれている。

設計条件	形、色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	開水路（護岸保護）、付帯施設（安全施設）
所在地	長野県明後村	事業名	国営かんがい排水事業（国営農業用水再編対策事業） 大和紀伊平野地区
基本原則	住居・文化	施設名	南平野開水路



整備後



整備後

【景観配慮対策の概要】

大和紀伊開水路は、明後村の集落内を流れ、水路の両側は歴史的風土保存地区となっている。沿道には、稲島寺、龜形石遺物、川原寺跡、仙伝宮跡などの歴史的遺跡や民俗文化館などの観光施設が点在し、観光客や地域住民の往来が多い。

このため、より地域に親しまれる施設としての整備を行うため、地域住民へのアンケートやワークショップにより、水路周辺の景観となじんだ配慮対策について検討した上で施設の整備が行われている。

- 水路の護岸は、周辺景観と調和するよう、石積みの形状を模した化粧型枠を採用している。
- 安全柵は、明後村の関伐材から製材した木材を調製の部材に貼り付ける工法を採用している。
- さらに、欄干部分は、周辺景観になじむよう濁水の色彩を採用している。

設計条件	形、色彩、素材	工 種	開水路（護岸保護）、 創設施設（安全施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営かんがい排水事業（国営農業用水供給事業）大野川下流地区
所 在 地	奈良県明日香村	施 設 名	東部幹線水路
基本原則	景観・美化		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

東部幹線水路は、明日香村の景観立軸を流れ、水路の周辺は歴史的風土保存地区となっている。周辺には、備前寺、鳳形石遺物、川原寺跡、仙傳宮跡などの歴史的遺跡や万葉文化館などの観光施設が点在し、観光客や地域住民の往来が多い。

このため、より地域に親しまれる施設としての整備を行うため、地域住民へのアンケートやワークショップにより、水路周辺の景観となじんだ配慮対策について検討した上で施設の整備が行われている。

- 水路の護岸は、周辺景観と調和するよう、石積み形状を模した化粧型枠を採用している。
- 防護柵は、明日香村の伝統材から製材した木材を調製の部材に貼り付ける工法を採用している。
- 鋼製部分は、周辺景観になじむよう茶系の色調を採用している。

設計条件	形、素材	工 種	開水路（護岸保護）
事業工種	水路工	事 業 名	高山山村地域整備交付金（地域用水環境整備事業）大野川地区
所 在 地	石川県金沢市	施 設 名	大野川用水
基本原則	保全		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

大野川用水は、金沢市の中心部を流れる、藩政時代に築造された金沢市で最も古い歴史と伝統のある用水路である。周辺には武家屋敷等の史跡や観光施設が多数あり、多くの観光客が訪れている。

金沢市では、歴史まちづくり法第3条にもとづく「金沢市歴史的風致維持向上計画」の中で大野川用水の景観化を事業内容としており、「金沢市用水保全条例」においても、用水の景観保全や開発化の促進、清流の確保、用水の利用を推進している。

このため、改修に当たっては、周辺の歴史的な景観との調和に配慮し、用水路の景観を保全した整備がなされている。

- 歴史的景観を保全するため、既設の石積み（石材）を利用して護岸の積み直しを行っている。
- また、コンクリート護岸の箇所は、石積み模した形状のブロックを使用し、周囲の景観との調和に配慮している。

設計条件	形、素材	工 種	開水路（護岸保護）
事業工種	水路工	事 業 名	国営地域用水環境整備事業 大野川地区
所 在 地	石川県金沢市	施 設 名	大野川用水
基本原則	保全		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

大野川用水は、金沢市の中心部を流れる、藩政時代に築造された金沢市で最も古い歴史と伝統のある用水路である。周辺には武家屋敷等の史跡や観光施設が多数あり、多くの観光客が訪れている。

金沢市では、歴史まちづくり法第3条にもとづく「金沢市歴史的風致維持向上計画」のなかで大野川用水の景観化を事業内容としており、「金沢市用水保全条例」においても、用水の景観保全や開発化の促進、清流の確保、用水の利用を推進している。

このため、改修に当たっては、周辺の歴史的な景観との調和に配慮し、用水路の景観を保全した整備がなされている。

- 歴史的景観を保全するため、既設の石積み（石材）を利用して護岸の積み直しを行っている。
- また、コンクリート護岸の箇所は、石積み模した形状のブロックを使用し、周囲の景観との調和に配慮している。

設計条件	景観・配置、素材	工 種	開水路（治水施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営かんがい排水事業（国営地域用水環境整備事業）丸瀬川下流地区
所 在 地	福井県永平寺町	施 設 名	右岸幹線用水路
基本原則	創造		



整備前



整備後（ポケットパーク）

【景観配慮対策の概要】

右岸幹線用水路は、既設の開水路から管水路への改修により水の流れが地上面から消えることになるため、埋めた水路の上部敷地の有効利用を住民参加のワークショップにより検討した。

施設周辺は、永平寺町界内の住宅団地に隣接し、周辺には大学もあり、地元自治会がマルシェや魚のつかみ取り大会等のイベントを開催する構想を持っていたことから、多くの人が訪れる施設となることが想定された。

このため、排水水路と広場を設け、地権者の集う場所として活用できる新たな水の空間が創造されている。

- 管水路化により生じた上部敷地は、丸瀬川の水辺景観に調和するよう自然石を使った水路（せせらぎ水路）と広場を配置し、新たな水辺空間を創造している。

設計条件	規模・配置、素材		
事業工種	水路工	工 種	管水路（親水路設）
所在地	福井県永平寺町	事業名	国営かんがい排水事業 団体営地域用水機能増進事業 九頭竜川下流地区
基本原則	創造	施設名	石中幹線用水路



整備後



整備後（ボートバー）

【景観配慮対策の概要】

石中幹線用水路は、既存の側水路から管水路への改修により水の流れが地上部から消えることになるため、埋めた水路の上部敷地の有効利用を住民参加のワークショップにより検討した。

施設周辺は、永平寺町郊外の住宅団地に隣接し、周辺には大学もあり、地元自治会がマルシェや魚のつかみ取り大会等のイベントを開催する構想を持っていたことから、多くの人が訪れる施設となることが想定された。

このため、親水路と広場を設け、地域住民の集う場所として活用できる新たな水辺空間が創造されている。

- 管水路化により生じた上部敷地は、九頭竜川の水辺景観に調和するよう自然石を使った水路（せせらぎ水路）と広場を配置し、新たな水辺空間を創造している。

設計条件	規模・配置、素材		
事業工種	水路工	工 種	管水路（親水路設）
所在地	愛知県安城市	事業名	農村自然環境整備事業（新元農村整備総合整備事業） 近の木地区
基本原則	創造	施設名	せせらぎ親水路



整備後



整備後

【景観配慮対策の概要】

幹線水路のパイプライン化に伴い発生する水路上部の敷地を管理用道路として整備するとともに、地域用水機能（生活・防災・環境用水）の維持増進を図るため、一部の支線水路をせせらぎ水路として一体的に整備した。

- 国営事業が契機となり、県営事業においても親水性や地域性・地域性・水機能の向上を図る事業展開が行われ、景観の向上に貢献した。
- せせらぎ水路の整備を進めるにあたっては、構想づくりの段階から地域住民の積極的参加を促し、地域用水機能や親水路にも採入れた石積み水路として景観に配慮した整備を行っている。

設計条件	形	工 種	水路橋
事業工種	水路工	事業名	国営総合農地防災事業 常盤寺川沿岸地区
所在地	富山県立山町	施設名	左岸連絡水路橋
基本原則	保全		



整備中(新橋,旧橋)



整備後

【景観配慮対策の概要】

左岸連絡水路橋は、常盤寺川の扇状地の扇頂部に位置し、周囲は山林に囲まれ、自然豊かな景観を有する。昭和27年に完成された本橋は、優れたデザインのアーチ橋であり、常盤寺川に架かる橋の中でも注目を集め、シンボルとなっていた。また、水路橋の下流部を鉄道と観光地である立山アルペンルートにつながる鉄道が横断していることから、多くの観光客等が往来する。

このため、本橋の改修に当たっては、旧水路橋の構造や形状を継承し、従前の景観を保全した整備がなされている。

- 本橋は、歴史的景観を保全するため、旧水路橋の三連コンクリートアーチ構造や橋桁のデザイン(形)を継承しつつ、本橋、床版、歩高欄には、プレキャスト部材を採用し、美観と耐久性の向上を図っている。

設計条件	形	工 種	水路橋
事業工種	水路工	事業名	国営総合農地防災事業 常盤寺川沿岸地区
所在地	富山県立山町	施設名	左岸連絡水路橋
基本原則	保全		



整備中(新橋,旧橋)



整備後

【景観配慮対策の概要】

左岸連絡水路橋は、常盤寺川の扇状地の扇頂部に位置し、周囲は山林に囲まれ、自然豊かな景観を有する。昭和27年に完成された本橋は、優れたデザインのアーチ橋であり、常盤寺川に架かる橋の中でも注目を集め、シンボルとなっていた。また、水路橋の下流部を鉄道と観光地である立山アルペンルートにつながる鉄道が横断していることから、多くの観光客等が往来する。

このため、本橋の改修に当たっては、旧水路橋の構造や形状を継承し、従前の景観を保全した整備がなされている。

- 本橋は、歴史的景観を保全するため、旧水路橋の三連コンクリートアーチ構造や橋桁のデザイン(形)を継承しつつ、本橋、床版、歩高欄には、プレキャスト部材を採用し、美観と耐久性の向上を図っている。

設計条件	形、色彩、素材	工 種	分水工
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 新沢平野地区
所在地	岩手県奥州市	施設名	円筒分水工
基本原則	保全		



整備中



整備後

【景観配慮対策の概要】

円筒分水工は、奥州市にあり排水用水をそれぞれに分水する施設である。昭和29年に設置された施設で、農業用施設の円筒分水工としては日本有数の規模を誇り、歴史的な農業水利施設として新沢平野のシンボルとなっている。また、周囲には「円筒分水アクアパーク」が造成されており、来訪者が訪れる場所となっている。

このため、農業用水の分水工の改修に当たっては、円筒分水工の持つ歴史的な構造や施設の形状を保全した整備がなされている。

- 分水工は、旧円筒分水工の構造や形状を継承することで、歴史的景観を保全している。
- 歩高欄は、周囲の景観との調和を考慮して鋼管を採用し、色彩も落ち着いた要素としている。

設計条件	形、色彩、素材	工 種	分水工
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 新沢平野地区
所在地	岩手県奥州市	施設名	円筒分水工
基本原則	保全		



整備中



整備後

【景観配慮対策の概要】

円筒分水工は、奥州市にあり排水用水をそれぞれに分水する施設である。昭和29年に設置された施設で、農業用施設の円筒分水工としては日本有数の規模を誇り、歴史的な農業水利施設として新沢平野のシンボルとなっている。また、周囲には「円筒分水アクアパーク」が造成されており、来訪者が訪れる場所となっている。

このため、農業用水の分水工の改修に当たっては、円筒分水工の持つ歴史的な構造や施設の形状を保全した整備がなされている。

- 分水工は、旧円筒分水工の構造や形状を継承することで、歴史的景観を保全している。
- 歩高欄は、周囲の景観との調和を考慮して鋼管を採用し、色彩も落ち着いた要素としている。

設計条件	規模・配置	工 種	調整施設
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 馬瀬川沿岸地区
所在地	岩手県一戸町	施設名	上方向ファームボンド
基本原則	除去・遮蔽		



整備前



覆土遮蔽後

【景観配慮対策の概要】

上方向ファームボンドは、馬中山高部の丘陵地帯に位置し、周辺には、畑や牧草地が広がる。

ファームボンドは、高弁に地上式とする予定であったが、周囲には遮蔽物が無いため、丘陵地の特徴から構造物が突出し、周辺景観に違和感をもたらす可能性があった。

このため、施設を地中埋設により遮蔽することで、現状景観の質を維持する整備がなされている。

- 丘陵地特徴から突出しないよう、地中埋設型の施設（配置）を採用している。

設計条件	規模・配置	工 種	調整施設（植栽）
事業工種	水路工	事業名	国営総合農地防災事業 新巻尾地区
所在地	岐阜県各務原市	施設名	前渡調整池
基本原則	除去・遮蔽		



整備前



整備 11号機

【景観配慮対策の概要】

前渡調整池は、前渡不動山の山腹に位置し、背景には林地帯が広がる。付近には神社が存在しており、地域住民のほかにも社参を訪れる観光客も多く、視認される機会が多い。

調整池の新設に当たっては、背景の林地帯で構成される周辺景観に違和感をもたらす可能性があった。このため、施設を遮蔽することで現状景観の質を維持する整備がなされている。

- 調整池は無機質なコンクリート構造物となるため、道路側に緑化区域を設けて樹木を配置し構造物を遮蔽している。
- 構造物の壁面には、鉛直にナツヅタを植栽し、壁面が目立たないよう植栽により遮蔽している。

設計条件	規模・配置	工 種	調整施設
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 馬瀬川沿岸地区
所在地	岩手県一戸町	施設名	上方向ファームボンド
基本原則	除去・遮蔽		



整備前



覆土遮蔽後

【景観配慮対策の概要】

上方向ファームボンドは、馬中山高部の丘陵地帯に位置し、周辺には、畑や牧草地が広がる。

ファームボンドは、高弁に地上式とする予定であったが、周囲には遮蔽物が無いため、丘陵地の特徴から構造物が突出し、周辺景観を悪化させる要因となる恐れがあった。

このため、施設を地中埋設し遮蔽することで、現状景観の質を維持する整備がなされている。

- 丘陵地特徴から突出しないよう、地中埋設型の施設（配置）を採用している。

設計条件	規模・配置	工 種	調整施設（植栽）
事業工種	水路工	事業名	国営総合農地防災事業 新巻尾地区
所在地	岐阜県各務原市	施設名	前渡調整池
基本原則	除去・遮蔽		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

前渡調整池は、前渡不動山の山腹に位置し、背景には林地帯が広がる。付近には神社が存在しており、地域住民のほかにも社参を訪れる観光客も多く、視認される機会が多い。

調整池の新設に当たっては、背景の林地帯で構成される周辺景観の悪化要因となる恐れがあった。このため、施設を遮蔽することで現状景観の質を維持する整備がなされている。

- 調整池は無機質なコンクリート構造物となるため、道路側に緑化区域を設けて樹木を配置し構造物を遮蔽している。
- 構造物の壁面には、鉛直にナツヅタを植栽し、壁面が目立たないよう植栽により遮蔽している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材	工 種	調整施設（治水施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営総合農地防災事業 渡良瀬川中央地区
所 在 地	群馬県大泉町	施 設 名	定光寺治水池
基本原則	創造		



整備後



整備前

【景観配慮対策の概要】

定光寺治水池は、大泉町の水田地域の端部に位置する。保水圏に隣接し、周辺には農道が走っているほか、地域住民が利用する病院や公園がある。

このため、治水池の建設に当たっては、ワークショップにより治水池の利用計画案を策定し、住民参加による植栽等維持管理活動について検討し、新たな治水空間を創造するものとして周辺景観に配慮した整備がなされている。

- 法面は地域住民によりアジサイ等を植栽（配置）しており、周辺景観のアセントを付加している。
- 遊歩道や安全柵は、周辺の治水空間と調和するよう茶系の色彩を採用している。また、防護柵には桜木（素材）を採用している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材	工 種	調整施設（治水施設）
事業工種	水路工	事 業 名	県営水環境整備事業 霞ヶ浦用水地区
所 在 地	茨城県大河市	施 設 名	東山田調整池
基本原則	創造		



整備後



整備前

【景観配慮対策の概要】

東山田調整池は、農地と住宅地が混在する地域に位置する。新たに設置される調整池は、地域住民の憩いの場として活用されることが考えられていたことから、調整池周辺に、新たな治水空間を創造するものとして、周辺景観に配慮した整備がなされている。

- 調整池の遠景整備にあわせて設置する「治水広親水公園」には、池周囲に遊歩道や水上デッキを配置し、周辺景観を眺望できる新たな空間を創造している。
- 遊歩道や水上デッキは、周辺になじみやすい木製とし、防護柵の色彩は、周辺になじみやすい茶系の色彩を採用している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材	工 種	調整施設（治水施設）
事業工種	水路工	事 業 名	国営総合農地防災事業 渡良瀬川中央地区
所 在 地	群馬県大泉町	施 設 名	定光寺治水池
基本原則	創造		



整備後



整備前

【景観配慮対策の概要】

定光寺治水池は、大泉町の水田地域の端部に位置する。保水圏に隣接し、周辺には農道が走っている他、地域住民が利用する病院や公園がある。

このため、新たな治水池の建設に当たっては、ワークショップにより治水池の利用計画案を策定し、住民参加による植栽等維持管理活動について検討し、新たな治水空間を創造するものとして周辺景観に配慮した整備がなされている。

- 法面は地域住民によりアジサイ等を植栽（配置）しており、周辺景観のアセントを付加している。
- 遊歩道や安全柵は、周辺の治水空間と調和するよう茶系の色彩を採用している。また、安全柵には桜木（素材）を採用している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材	工 種	調整施設（治水施設）
事業工種	水路工	事 業 名	県営水環境整備事業 霞ヶ浦用水地区
所 在 地	茨城県大河市	施 設 名	東山田調整池
基本原則	創造		



整備後



整備前

【景観配慮対策の概要】

東山田調整池は、農地と住宅地が混在する地域に位置する。新たに設置される調整池は、地域住民の憩いの場として活用されることが考えられていたことから、調整池周辺に、新たな治水空間を創造するものとして、周辺景観に配慮した整備がなされている。

- 調整池の遠景整備にあわせて設置する「治水広親水公園」には、池周囲に遊歩道や水上デッキを配置し、周辺景観を眺望できる新たな空間を創造している。
- 遊歩道や水上デッキは、周辺になじみやすい木製とし、安全柵の色彩は、周辺になじみやすい茶系の色彩を採用している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	調整施設（治水施設）
所在地	岡山県倉敷市	事業名	県営地域用水環境整備事業 酒津地区
基本原則	創造	施設名	酒津配水池



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

酒津配水池は、大正末期に築造され、歴史的に形成された水辺空間を持つ景観にある。また、配水池は桜並木が美しい「水と桜」の名所として知られることから、来訪者が多く訪れる場所となっている。

このため、配水池の整備に当たっては、歴史的に形成された配水池周辺の景観に配慮しつつ、新たな水辺空間を創造する整備がなされている。

- 配水池中央部には、池に対する視点場となるデッキを配置し、池からの周辺景観を眺望できるようにしている。
- 遊歩道の防護柵は、周辺の水辺空間になじみやすい木材の自然色を採用している。

設計条件	色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	付帯施設（安全施設）
所在地	兵庫県大崎市	事業名	国営かんがい排水事業 大崎西園・江合川・大崎地区
基本原則	修景・美化	施設名	桜の自然循環水路



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

桜の自然循環水路の改修に当たっては、昭和30年代に地元青年会が植栽した桜並木と用水路が併行する景観を多くの人に楽しんでもらうため、地域住民参加によるワークショップでの検討を踏まえ、管理用道路兼遊歩道「さくらの小道」を整備した。

- 桜の根を保護するなど樹木を傷つけないような工法を選定するとともに、管理用道路兼遊歩道の舗装色や材質等は地域住民によって検討を行い、赤色系のカラー舗装に、防護柵は周辺の景観と調和するよう同材を採用している。
- 「さくらの小道」が整備され、桜の地域資源としての価値を高め、住民の憩いの場を形成している。
- 計画作成のワークショップや制定工等の設計施工に地域住民が参加したことから、草刈りや樹幹等の維持管理も地域住民が主体的に実施している。

設計条件	規模・配置、色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	調整施設（治水施設）
所在地	岡山県倉敷市	事業名	県営地域用水環境整備事業 酒津地区
基本原則	創造	施設名	酒津配水池



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

酒津配水池は、大正末期に築造され、歴史的に形成された水辺空間を持つ景観にある。また、配水池は桜並木が美しい桜の名所として知られることから、来訪者が多く訪れる場所となっている。

このため、配水池の整備に当たっては、歴史的に形成された配水池周辺の景観に配慮しつつ、新たな水辺空間を創造する整備がなされている。

- 配水池中央部には、池に対する視点場となるデッキを配置し、池からの周辺景観を眺望できるようにしている。
- 遊歩道の安全柵は、周辺の水辺空間になじみやすい木材の自然色を採用している。

設計条件	色彩、素材		
事業工種	水路工	工 種	付帯施設（安全施設）
所在地	山形県庄内町	事業名	国営かんがい排水事業 最上川下流地区
基本原則	修景・美化	施設名	北堀大堰用水路



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

北堀大堰用水路は、最上川の左岸を流れる用水路で、江戸時代に開削された歴史的な水路である。水路沿いの左岸側は自然林と寺社があり、右岸には農道が広がる。水路沿いの道は地域住民の生活道路であるほか、寺社への参道になっている。

このため、用水路の改修は、周辺の景観に違和感を与えないよう配慮をした整備がなされている。

- 安全柵は、周囲になじむように奥木（素材）を採用している。
- さらに、安全柵の色調は、落ち着いた黒茶色を採用している。



奥木の安全柵

設計条件	形、色、素材	工 種	排水施設（安全施設）
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 最上川下流沿岸地区
所在地	山形県庄内町	施設名	北村大瀬用水路
基本原則	修景・美化		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

北村大瀬用水路は、最上川の左岸を流れる用水路で、江戸時代に開削された歴史的な水路である。水路沿いの左岸側は自然林と寺社があり、右岸には集落が広がる。水路沿いの道は地域住民の生活道路であるほか、寺社への参道になっている。

このため、用水路の改修は、周辺景観に違和感を与えないよう配慮をした整備がなされている。

- 防護柵は、周囲になじむように桐木（素材）を採用している。
- 防護柵の色は、落ち着いた黒茶色を採用している。



桐木の防護柵

設計条件	規模・配置、色	工 種	開水路（護岸保護）、排水施設（管理用道路、安全施設）
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 香川用水土器川沿岸地区
所在地	香川県丸亀市	施設名	小津守池水路
基本原則	修景・美化		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

小津守池水路は、阿讃山脈の麓に位置し、周辺にはゆきを背景とする農地が広がる。地域には多くのため池が存在し、用水路沿いの管理用道路は地域住民の生活道路となっており、地域住民が日常的に水路と接する機会がある。

このため、改修に当たって、地域住民等が参加するワークショップにより、景観配慮の内容や事業完了後の用水路の活用と管理方法等について検討し、整備が行われている。

- 管理用道路は、散歩のための道として利用されるため、周辺景観になじむ茶系の舗装で修景を行っている。
- また、防護柵の色にも周辺景観になじむような茶系を採用している。
- 遊いの場としての利用増進を図るため、住民参加による景観配慮の維持管理活動として、法面などへの植栽（配植）を実施している。

設計条件	規模・配置、色	工 種	開水路（護岸保護）、付帯施設（管理用道路、安全施設）
事業工種	水路工	事業名	国営かんがい排水事業 香川用水土器川沿岸地区
所在地	香川県丸亀市	施設名	小津守池水路
基本原則	修景・美化		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

小津守池水路は、阿讃山脈のふもとに位置し、周辺にはゆきを背景とする農地が広がる。地域には多くのため池が存在し、用水路沿いの管理用道路は地域住民の生活道路となっており、地域住民が日常的に水路と接する機会がある。

このため、改修に当たって、地域住民等が参加するワークショップにより、景観配慮の内容や事業完了後の用水路の活用と管理方法等について検討し、整備が行われている。

- 管理用道路は、散歩道として利用するため、周辺景観になじむ茶系の舗装で修景を行っている。
- また、安全柵の色にも周辺景観になじむような茶系を採用している。
- 遊いの場としての利用増進を図るため、住民参加による景観配慮の維持管理活動として、法面などへの植栽（配植）を実施している。

[水管理施設]

設計条件	形、色、素材	工 種	建屋
事業工種	水管理施設	事業名	国営かんがい排水事業 伊是名地区
所在地	沖縄県伊是名村	施設名	中央管理所
基本原則	修景・美化		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

中央管理所の周辺には、沖縄の民家独特の赤瓦を用いた建物が点在しており主要な景観要素となっている。沖縄の民家は、赤瓦をはじめ雨や日差しから守る長い軒、それを支える柱などが特徴となっており、石垣には、伝統的形骸が良好に保存され国指定の重要文化財にもなっている民家（内4-54）住宅などがある。

施設の整備にあたっては、沖縄民家の伝統的形骸をデザインコードとして活用した整備がなされている。

- 建屋の形は、沖縄の民家の長い軒、それを支える柱などの特徴を活かしている。
- 屋根の色は周辺建造物との統一感を乱さないよう赤瓦（素材）を採用している。

【水管理施設】

設計条件	形、色彩、素材	工 種	建築
事業工種	水管理施設	事業名	国営かんがい排水事業 伊勢名地区
所在地	沖繩県伊勢名村	施設名	中央管理所
基本原則	景観・美化		



整備中



整備後

【景観配慮対策の概要】

中央管理所の周辺には、沖縄の民家建築の赤瓦を用いた建物が点在しており主要な景観構成要素となっている。沖縄の民家は、赤瓦を~~飾り~~、田や畑を~~か~~守る~~目~~利、それを支える柱などが特徴となっており、近頃には、伝統的形態が良好に保存され国指定の重要文化財にもなっている館陶家（めがらげ）住宅などがある。

施設を整備に当たっては、沖縄民家の伝統的形態をデザインロードとして活用した景観がなされている。

- 建屋の形は、沖縄の民家の目利、それを支える柱などの特徴を生かしている。
- 屋瓦の色彩は周辺構造物との統一感を乱さないよう赤瓦（素材）を採用している。

【ほ場整備】

設計条件	規模・配置、形	工 種	区画整理（全世帯道構の保全）
事業工種	ほ場整備	事業名	国営農地再編整備事業 亀岡地区
所在地	京都府亀岡市	施設名	区画整理（亀岡地区）
基本原則	保全		



整備前



整備後（移植されたハンノキ）

【景観配慮対策の概要】

亀岡地区は、京都府中部の盆地中央を流れる桂川の左岸に広がる本川地域に位置する。奈良時代には、丹波国府や国分寺が置かれ律制による広大な農地が整備され基礎の目状に整形された土地区画が特徴となっている。また、長い農家の営みの中で水田畔には、ハンノキ等の植林や流石瓦が植栽され美しい農村景観が形成されてきた。

このため、区画整理は、農家の営みの中で形成された農村景観と文化的価値の保全に配慮した整備がなされている。

- 地域住民の参加によるワークショップにおいて、事業区域のゾーニングを行い、配慮対策を実施している。
- 区画整理は、ほ場作業効率を向上させる区画設計を採用しつつ、全世帯道構（土地利用形状）をできるだけ残し、文化的な景観を保全している。
- 地域のシンボルにもなっている流石瓦や植林木を新たな水田畔に移植（配置）する対策を実施している。

設計条件	形、素材	工 種	区画整理（棚田景観の保全）
事業工種	ほ場整備	事業名	農用地社会整備事業 美濃東部区域
所在地	岐阜県恵那市	施設名	区画整理（橋立団地）
基本原則	保全		



整備前



整備 12 年後

【景観配慮対策の概要】

橋立団地は、恵那市の中山間地域に位置している。対象農地はほとんどが急傾斜の石積み棚田といった特徴を持っている。特に、団地内の板新地区は急斜面に 470 枚の石積み棚田が連続する「板新棚田」として日本の棚田百選に選定されており、棚田のオーナーや各種イベントの参加者等、地域内外から多くの来訪者がある。

このため、区画整理は既存の棚田景観を乱さないよう配慮した整備がなされている。

- 区画整理によって生じる畦畔法面は、現況の石積みの石材を使用し、既存の棚田の景観との調和を図っている。
- 畦畔の法面が長大になる場合には、法面尻となる下部に現況石積み工法を採用し、石積みの景観を保全している。

【ほ場整備】

設計条件	規模・配置、形	工 種	区画整理（全世帯道構の保全）
事業工種	ほ場整備	事業名	国営農地再編整備事業 亀岡地区
所在地	京都府亀岡市	施設名	区画整理（亀岡地区）
基本原則	保全		



整備前



整備後（移植されたハンノキ）

【景観配慮対策の概要】

亀岡地区は、京都府中部の盆地中央を流れる桂川の左岸に広がる本川地域に位置する。奈良時代には、丹波国府や国分寺が置かれ律制による広大な農地が整備され基礎の目状に整形された土地区画が特徴となっている。また、長い農家の営みの中で水田畔には、ハンノキ等の植林や流石瓦が植栽され美しい農村景観が形成されてきた。

このため、区画整理は、農家の営みの中で形成された農村景観と文化的価値の保全に配慮した整備がなされている。

- 地域住民の参加によるワークショップにおいて、事業区域のゾーニングを行い、配慮対策を実施している。
- 区画整理は、ほ場作業効率を向上させる区画設計を採用しつつ、全世帯道構（土地利用形状）をできるだけ残し、文化的な景観を保全している。
- 地域のシンボルにもなっている流石瓦や植林木を新たな水田畔に移植（配置）する対策を実施している。

設計条件	形、素材	工 種	区画整理（棚田景観の保全）
事業工種	ほ場整備	事業名	農用地社会整備事業 美濃東部区域
所在地	岐阜県恵那市	施設名	区画整理（橋立団地）
基本原則	保全		



整備前



整備後

【景観配慮対策の概要】

橋立団地は、恵那市の中山間地域に位置している。対象農地はほとんどが急傾斜の石積み棚田といった特徴を持っている。特に、団地内の板新地区は急斜面に 470 枚の石積み棚田が連続する「板新棚田」として日本の棚田百選に選定されており、棚田のオーナーや各種イベントの参加者等、地域内外から多くの来訪者がある。

このため、区画整理は既存の棚田景観を乱さないよう配慮した整備がなされている。

- 区画整理によって生じる畦畔法面は、現況の石積みの石材を使用し、既存の棚田の景観との調和を図っている。
- 畦畔の法面が長大になる場合には、法面尻となる下部に現況石積み工法を採用し、石積みの景観を保全している。

設計条件	素材	工 種	区画整理（畦畔法面保護）
事業工種	はち場整備	事業名	農用地総合整備事業 西洞森下団地
所在地	岐阜県恵那市	施設名	区画整理（西洞森下団地）
基本原則	景観・美化		

【景観配慮対策の概要】
 西洞森下団地は、恵那市の中山間地域の中でも比較的営農条件に適した立地条件にあったことから、農作業の効率化を図るため区画形状の拡大を基本とした整備が行われている。周辺景観は、農地の背後に森林を抱えることから、大区画化に伴い発生する長大な法面が周辺景観に違和感を与えないよう配慮をした整備がなされている。

- 区画整理は、傾斜方向に区画を拡大する工法を採用し農作業の効率化を図っている。
- 畦畔法面保護は植栽を採用し、周辺の中山間地域の景観にならなう配慮している。
- 緑化の素材はグラウンドカバープランツを採用し、景観への配慮と法面の維持管理労力の軽減を図っている。



整備前



整備後

設計条件	景観・配置	工 種	区画整理（樹守の森の保全）
事業工種	はち場整備	事業名	農用地総合整備事業 平川東部地区
所在地	千葉県袖ヶ浦市	施設名	区画整理（八坂神社団地）
基本原則	保全		

【景観配慮対策の概要】
 平川東部地区は、袖ヶ浦市の郊外に広がる水田地域に位置する。袖ヶ浦市では、弥生時代の水田跡や荘園跡が確認されており、古くから農業が営まれ、また、地域に点在する社寺では、作物の古田を占う神事など農業に関わる民俗行事が賑々と引き継がれている。事業地区内の八坂神社でも、これらの行事が行われ農村文化を表す景観構成要素となっている。

このため、区画整理は、農村文化として息づく、八坂神社と樹守の森を保全することにより、農村景観と文化的価値の維持に配慮した整備がなされている。

- 樹守の森を現況の配置のままとし、景観を保全している。



整備前



整備後

設計条件	素材	工 種	区画整理（畦畔法面保護）
事業工種	はち場整備	事業名	農用地総合整備事業 西洞森下団地
所在地	岐阜県恵那市	施設名	区画整理（西洞森下団地）
基本原則	景観・美化		

【景観配慮対策の概要】
 西洞森下団地は、恵那市の中山間地域の中でも比較的営農条件に適した立地条件にあったことから、農作業の効率化を図るため区画形状の拡大を基本とした整備が行われている。周辺景観は、農地の背後に森林を抱えることから、大区画化に伴い発生する長大な法面が周辺景観に違和感を与えないよう配慮をした整備がなされている。

- 区画整理は、傾斜方向に区画を拡大する工法を採用し農作業の効率化を図っている。
- 畦畔法面保護は植栽を採用し、周辺の中山間地域の景観にならなう配慮している。
- 緑化の素材はグラウンドカバープランツを採用し、景観への配慮と法面の維持管理労力の軽減を図っている。



整備前



整備後

設計条件	景観・配置	工 種	区画整理（樹守の森の保全）
事業工種	はち場整備	事業名	農用地総合整備事業 平川東部地区
所在地	千葉県袖ヶ浦市	施設名	区画整理（八坂神社団地）
基本原則	保全		

【景観配慮対策の概要】
 平川東部地区は、袖ヶ浦市の郊外に広がる水田地域に位置する。袖ヶ浦市では、弥生時代の水田跡や荘園跡が確認されており、古くから農業が営まれ、また、地域に点在する社寺では、作物の古田を占う神事など農業に関わる民俗行事が賑々と引き継がれている。事業地区内の八坂神社でも、これらの行事が行われ農村文化を表す景観構成要素となっている。

このため、区画整理は、農村文化として息づく、八坂神社と樹守の森を保全することにより、農村景観と文化的価値の維持に配慮した整備がなされている。

- 樹守の森を現況の配置のままとし、景観を保全している。



整備前



整備後

設計条件	景観・配置・素材		
事業工種	はな整備	工 種	区画整理(地味な区画整理)
所在地	石川町七尾市	事業名	景観整備事業(町道・農道地区)
基本原則	景観・美化	施設名	区画整理(町道・農道地区)



整備前



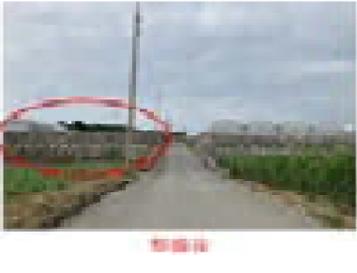
整備後

【景観配慮対策の概要】

景観に関する財源不足、高齢化が進んでおり、農作業・維持管理作業の省力化、効率化の実現が課題となる中、景観整備により良質な景観が形成されることを促し、維持管理対策として防草剤の敷設と草刈りを実施した。

- 景観整備による景観維持を促したため景観により、景観とともに魅力ある農村づくりに向けた資源としての整備を進める。
- 景観を整備した景観内の法面ややせ地を維持管理するとともに、令和4年度までに農道地区内で延床 2,400 坪、延床 150 坪を建設し、景観形成とともに 300 年後の景観づくりを促すことにより、新たな景観整備を生み出すことを目指す計画を策定した(「特定農道地区景観整備計画」策定委員会)。

設計条件	景観		
事業工種	はな整備	工 種	区画整理(石積み補修)
所在地	津波町八雲町	事業名	農業競争力強化支援事業(農道地区)
基本原則	景観・美化	施設名	区画整理



整備前



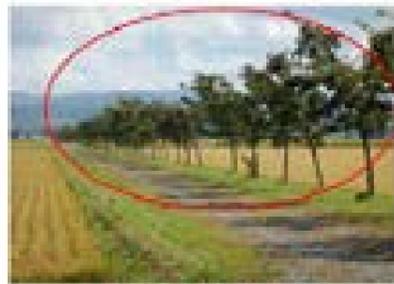
整備後

【景観配慮対策の概要】

農道地区における代表的な景観整備地帯のひとつである。また、本地区は景観石積地帯であり、景観維持した景観石積地帯を有効活用し、景観等の景観整備として整備することで、景観の景観と調和した、景観維持の景観による景観が形成されている。

- 本地区は景観石積地帯であり、土地改良事業等の工事の際に捨てた景観石積石を利用した。
- 整備前後は景観石積地帯の景観も、時間経過とともに色合いが変化することで景観の景観の景観の景観が景観の景観とよくなっている。
- 景観石積石を利用した景観は「景観」文化を思い起こさせる農村景観となっている。

設計条件	規模・配置、素材	工 種	風害防止（防風林）
事業工種	ほ場整備	事業名	国営西尾河川総合事業 由仁地区
所在地	北海道由仁町	施設名	防風林
基本原則	自然・文化		



整備後（南北防風林）



植樹の様子（住民参加型作業）
（写真提供：由仁町）

【施設配置対象の概要】

ほ場整備事業に際し、台風による本郷の品質低下を防ぐため東西方向の農道に防風林を配する計画を検討した。地元の実情のほか、農工会女性部、農土資料研究会、ホープ愛好家グループなど地域住民の参加を得て、ワークショップを開催し、生態系や景観に配慮した防風林として植栽する樹木種を選定、植樹した。

- 農作物への日照の影響を極力少なくするため、東西方向の農道の両側（延長的 200m）に5m間隔でミズナギを配した。
- 地域の南北方向に並びる幹線道路に沿って地域のシンボルとなる南北樹林帯（約1km）を計画し、ミズナギを5m間隔で植栽し、その間に花が咲くミズナギホヤ、実を食べられるグマツトビヤナギを植え、さらに緑地には雑草対策としてホープのグムズを植栽した。
- 防風林の維持管理は受益農家で構成される管理組織が草刈り等の作業を実施。防風効果が期待されているとともに、土地改良団の啓発活動により地域住民等に防風林の存在が浸透した。